

高安詰所だより

第12号

立教185年

12月20日



豊田山墓地ひのきしん

「お礼団参」

十一月二十七日に行われた「教祖お入り込み百四十周年お礼団参」には、千六百名もの方々がお帰り下さり、揃って東礼拝場でおつとめをつとめさせて頂きました。

午後からは豊田山墓地に移動して、御苦労下さった先人先輩の御霊様方に感謝の気持ちを込め、清掃ひのきしんをさせて頂きました。ここ数年、コロナで中々足を運べなかったお墓地にお参りでき、ひのきしんを通して気持ちもリフレッシュして心から勇ませて頂きました。

年が明ければ、いよいよ教祖百四十年祭に向かう三年千日の年祭活動が始まります。高安の理に繋がる者として、回りの様子を伺いながらノコノコついて行くのではなく、初代会長様はじめ、先人方がお通り下さったように、自分が全教を牽引するのだという覚悟で年祭活動に臨むことを、豊田山に眠る御霊様方に誓いました。

詰所行事予定（一月）

- 一日 本部元旦祭参拝
- 三日 大教会合同初づとめ参拝
- 五～七日 本部おせち帰参者受入れ

八日 にをいがけ実動

十一日 勤務者修練Ⅰ

十三日 おつとめ勉強会

十七日 直轄祭参拝（大教会）

二十日 勤務者修練Ⅱ

二十三日 大教会春季大祭参拝

二十六日 本部春季大祭参拝者受入れ

詰所の動き

お礼団参

十一月二十七日

諭達発布後初の団参を通して「教祖お入り込み百四十周年」

の年の心定めを完遂し、「教祖百四十年祭」へ向け、三年千



日の年祭活動

に向かう決意

を新たにしま

した。



女子青年大会

十一月二十七日

女子青年大会がおちばで開催されました。全国から無数の早乙女達が本部中庭に集結。秋のおちばに明るい華が咲き揃いました。高安女子青年も百四十数名が参加してくれました。

青年会ひのきしん隊

十一月のひのきしん隊では、休暇日にもかかわらず詰所ひのきしんに出勤してくれました。団参受け入れ準備ひのきしんや、二棟前広場を囲むグリーンベルトで、ひつつき虫とカメムシに苦戦しつつ、除草、剪定ひのきしんに励んでくれました。お陰で日頃は中々手が入らず、森のように鬱そうとしていた庭にも木漏れ日が差し込み、美しく蘇りました。

詰所ミニライブ

毎月恒例となった詰所ミニライブ。今月は飛び入りのフルート演奏が加わりました。「おやさまのうた」の合唱もあつて、皆様でおちばでの楽しいひとときを過ごしました。



にをいがけ実動 十二月八日

今月も西長柄方面に出動し、肌突く寒風にも怯むことなく、ご存命の教祖のお供をして、教祖百四十年祭に向かって勇んで「にをいがけ」に歩かせて頂きました。

「ソフトボール大会」 優勝



コロナで休止されていた詰所区会対抗「親善ソフトボール大会」が今年復活し、高安詰所の属する第三区会が見事優勝を果たしました。高安からは、日頃の「お布団運び」で鍛え抜かれた筋肉を誇る事務所の築取雄二選手が出場し、投打に亘って活躍し、優勝に大きく貢献しました。

修養科 ・ 第九七五期 修了 門出式

修養科第九七五期生、男子五名、女子八名、計十三名が十一月二十七日、全員無事修了され、大会での門出式でも立派なおつとめをつとめられました。三か月間、寝



食を共にし、お世話取り下さいました教養掛の高橋真一郎先生、北野眞理先生、そして助手の西海湧起さん、ありがとうございます。また修了生の皆様からは、修了のお礼にと車椅子や衛生用品等々を記念品として詰所に贈呈して下さいました。ありがとうございます。大切に使用させて頂きます。



尚、代わつての第九七八期教養掛には、次の先生方がおつとめ下さっています。

男子 山崎栄慈先生

(泉東・洵和)



男子助手長畑佳暉さん

(泉東・茅海)

女子 大北和代先生

(小山田)



ほこてんり(十一月十九、二十日)

銀杏並木が美しい親里大路が、この度重商制限されて「歩行者天国」となり、天理教校や天理大学、奈良県警察隊のマーチングバンドのパレード演奏もあつて、秋のおちばは大いに盛り上がりました。



お知らせ

本部おせち (一月五〜七日)

コロナで二年間休止されていたおせちが再開されます。お下がりのお餅を頂いて、来年も元氣にお護り頂けますよう、信者の皆さんやご近所の方々にも広くお声掛け下さい。

本部巡教 (二月二十三日)

大教会では、来年の春季大祭に引き続き、本部巡教を受けさせて頂きます(講師・本部員西浦忠一先生)。対象となる全部内教会長方は漏れなくご参拝、ご受講下さい。またこれを受けて、大教会では二月(海外など二部三月)に「全教会一斉巡教」を実施し、諭達第四号の趣旨を徹底し、全部内教会の心を一つに揃えて教祖百四十年祭の年祭活動に向かいます。

発行 天理教高安大教会信者詰所

発行者 芦田孝廣

印刷 天理市守目堂町二五五番地一